

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470800885		
法人名	株式会社森伸		
事業所名	ケアパートナー森伸小侯 ユニット1		
所在地	三重県伊勢市小侯町明野1308		
自己評価作成日	令和2年11月17日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470800885-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470800885-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和 2 年 12 月 3 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・御入居者の笑顔を決やさない「生きがいづくり」を目指している。
---------------------------------

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は前管理者が急な退職で引き継ぎ不十分な中でも、現管理者は利用者一人一人を大切に、重度化しないよう支援体制に配慮している。そして職員を育てる工夫をこらし、退居者を出さないよう努力している。また職員はコロナ禍で内外に制約は多いが、会議や研修において活発な意見交換をしながら利用者への支援策を協議する等、意欲を持って取り組んでいる。例えば介護技術等のDVDを所内に配信し、職員はパソコンやスマートフォンでいつでも見られるよう工夫することでスキルアップとサービス向上につながっている。こうした取り組みによって、利用者は朗らかな雰囲気の中で各自思い思いに利用者や職員と会話し合ったり、事業所内を好きなように移動したりしている。
--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オリエンテーション時に事業所の理念の共有を行い、昼礼時の最後に会社理念を職員と共に唱和している。	理念を具体化して一人ひとりを大事に、残存機能を衰えさせない、趣味や生きがいを大切にしながら支援している。特に事業所を特養と同じ仕組みにしないよう、重度化予防に配慮して職員指導に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ禍である為、積極的な交流は日常の生活の散歩の中で、近隣の方と挨拶し広報誌を配布している。	管理者は前任者の急な退職で本年4月に配置され、ホーム内も地域もまだ掌握できていないが、自治会長と交流し始めた。地域との交流を深めたいが、コロナのためあいさつ程度で、交流は次年度の課題になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	明野高校の実習生の受け入れを行っていたが、現在コロナ禍の為明野高校とも相談し今年には行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が変わり、コロナ禍の中なので運営推進会議は行われていないが地域の自治会長と連携を取っている。	これまで奇数月に開催したが、コロナのため本年3月以降は開催していない。現管理者は、これまでの開催状況を把握しておらず、近くに住む家族と相談し、参加呼びかけや議題等を決めたいと思っている。	管理者交代後で従来の状況が不明確ながら、会議の意義・役割等を考慮し、コロナ禍における通知・議題・開催可否の理由等を文書に記録し保存等の検討を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者の御利用者が区分変更をかけた時、生活保護費のことで相談があり上限を超えない様対応策を考え連絡を取り合った。	地域包括支援会議に参加しているが今は休止中である。行政の集団指導は動画で参加したが、意見交換が不十分で、課題が残った。介護認定や生活保護はケアマネが関係課と対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行っていた御利用者には、安全性を確認し拘束をしない様改善を行った。5月部署会議において職員と身体拘束委員を発足し取り組んでいる。	ドアは開け放しであったが、無断外出の利用者が生じたので、身体拘束防止委員会で検討し、法人に報告し、法人全体でドアにセンサーを付けることにした。拘束事例は他にないが、委員会は適宜開く予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や部署会議にて学び、虐待になっていないか入浴時など身体観察を行い身体拘束委員会を通して話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している御利用者もあり、職員も身近に感じており受け入れを行っている。地域との連携により改めてわかることもあり、部署会議で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を見て頂きながら説明を行い、不安や不明な点が無いよう何度か機会を設けている。希望があれば見学にも来て頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情窓口として意見箱を検討している。家族様が来館された時は、相談ごとがないか伺っている。	家族の来訪は多かったのでコロナで自粛を要請、10月から解除したが家族側が控えている。家族会があるが今は開けないので、電話や写真のやり取り(毎月の請求書に同封する)で交流している。意見・苦情は特にはない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務内においてお互いを知る為職員の思いを聴く努力をしている。また、ユニットの交流も大事と考え話しやすい環境づくりや職員に考える場を与え職員の成長を考えている。	朝礼が困難で昼礼を毎日している。毎月の職員会議は全員とするが、夜8時のため常勤以外の出席が少なく、管理者は非常勤の意見調整に苦労している。研修は動画を導入し、欠席者は誰でもいつでも見られる。業務日誌は交代で毎日記録し、管理者がコメントしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	OJTのチェックを行いキャリアステップ制度を行っている。また、介護福祉士の資格を取得できるような環境や夜勤手当、正月手当等の検討を行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年から今まで社内研修に参加できなかった職員のために動画を使った研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	伊勢市介護保険サービス事業所連絡会に参加していたが今年はコロナ禍の為メールで交流を行っている。また、職員に閲覧している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の意向、要望を伺い安心安全を第一に家族様と共に考えている。ご本人ができること好きなことをカンファレンスを部署会議で検討し情報共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設内を見学して頂き、料金・ケア方法・入院になった場合など出来るだけ分かり易く説明を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況を家族様から伺い、ご本人と直接お会いして話しをさせていただいている。他のサービス利用も含め家族様に話している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、これまでの暮らし方、経験能力を大切にしながらお互いに協働して和やかに過ごせるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時、日常の生活において日頃の様子や体調変化など状況報告を行っている。今年はコロナ禍の為、外出は少なくなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の兄弟や、家族様が自由に面会していただいている。また、職員は御利用者の生活歴の中で思い出に残ることを話題にして思い出して戴く様努めている。	コロナで外部交流が少ない上、長期入居者は来訪者も少なくなり、関係継続が薄くなっている。家族の来訪が少ないと職員がカバーし、昔の苦労話などは記録している。今はユニット間交流で食事やおやつと一緒に話し合うが、限度も生じている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士一緒に懐かしい歌を歌い楽しまれていることを見守っている。また、トラブル発生の場合には職員が間に入ってフォローしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了後家族様から連絡があった場合ご本人の様子を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中、気づいたことは記録に残している。また、職員間で共有している。	利用者の気持を把握するよう、これまでの生活で何をしてきたかに注目している。針仕事の技術を生かして縫物を頼んだこともある。元看護師の利用者は毎朝ドアをノックし人を起こすが、3交代勤務当時の習慣が残っているようであり、所内で容認されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に住んでいた場所に伺い、ご本人の思いや習慣などを伺っている。今までの馴染みの生活が送れるよう日頃のかかわりから把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日を通して、身体観察・食事水分量・排泄等確認を行い変化があれば看護師に報告し、職員同士情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングを実施し、利用者・担当職員等の意見を取り入れ、利用者が「生きがい・好きなこと」を出来るようにケアのあり方を目標としている。	職員は担当制であり、職員が記録した利用者毎の日常を基にケアマネがケアプランにまとめている。日々の食事・排泄・着替え等に注目し、状況変化あればその都度ケアプランに反映させるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施を記録し、口頭でも職員同士情報の共有に努めている。介護アプリを活用してケアマネや管理者がいつでも情報が共有できるよう活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩、買い物、協力医への通院など日常生活全般に、職員が柔軟に支援を行っている。かかりつけ医への通院や受診はご家族にお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や野菜を植えたり、定期的に散髪や口腔ケアを行っている。今年はコロナ禍の為、ボランティアの方と交流は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診だけでなく月1回の往診に来てもらっている。また、口腔ケア、歯の治療も行い、管理者・ケアマネ・看護師共に医師と連携を取っている。	協力医は毎月訪問診療するので、利用者全員が受診している。協力医は必要に応じて専門医(整形外科・皮膚科・泌尿器科・総合病院等)を紹介するので通院するが、家族が同行する。しかし事情によっては職員が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	褥瘡のある利用者に対し医師と連携を図り訪問看護師、職場内の看護職員が相談し適切な処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供をさせて頂いている。状況により退院出来る場合は、早期に退院できるよう病院関係者と連携を密に取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	3月中で管理者が代わり、重度化した場合や終末期については、家族や医師との相談の上でできるだけ満足を得られるよう訪問看護を活用し対応を考えている。過去にも看取りを行っている。	昨年も今年も看取りを経験した。入院か看取りをするか、家族の意見次第で決めている。実際には老衰による自然死であるが、協力医の指示により対応している。訪問看護は同じ法人内にあり、連携しやすい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しているが、職員は社内研修や資格研修において急変時、事故発生時の際初期対応が全員出来る様研修会を検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回災害時の訓練を行っている。しかし、地域との協力体制が課題と考えている。	防災訓練は春と9月に行っている。防火管理者は職員が務めている。訓練は、通報・消臭・避難・消火等を利用者と共に行っている。前回の検討事項である防災訓練のマニュアルは、管理者が交替したためまだ文書化されていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に寄り添いながらも、個々のプライバシーは保てるよう配慮を行っている。	記録類は第三者にみられないよう、スマホで入力、パソコンでプリントするようセットしてある。また、利用者が他人の部屋に入らないよう、注意を払っている。トイレ誘導は目立たないよう行い、匂い漏れにも注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、衣類だったりおやつや飲み物を選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の様子を観察しながら、御利用者から「やる気」が持てるよう配慮に気をつけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れがあれば洗濯を行い綻びが出ると繕いを見守っている。寒くなる季節には、首元にマフラーを纏い、おしゃれを楽しんでもらえるよう声をかけている。男性には細目に髭剃りをおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を見て楽しむだけでなく、美味しく味わっていただくために、口腔体操を15分位行っている。	ご飯とみそ汁、一部のおやつは職員が作るが、副食類・おやつは冷凍品が業者から郵送され、事業所で温めている。検食簿は業者に送付している。誕生会等の行事食はこれから検討する。食後の洗い物を手伝う利用者がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月初めに体重測定を行っている。食事量水分量も毎日記録に残している。夜間にも起きているときは、声掛けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。口の中に残渣物が残らない様、お茶ゼリーを食べていただいたり、入れ歯の方は入れ歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、排泄パターンを把握すると共に排泄物の確認を行っている。トイレ誘導を行うことにより、トイレでの排泄を促している。	トイレ自立はリハビリパンツ使用を含め3名、他の人は職員が見守りや介助をしている。便秘することが多いので、事業所内を少しでも歩いたり、動いてもらったり、消化しやすいおやつを選んだりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状態を確認し、便秘薬ばかりに拘らず、運動(歩くなど)を心掛けている。また、便通改善のバナナ等食べてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夏場は週3回、冬場は週2回入浴している。しかし、中には、続けて入浴を希望される方もいるので、時間に拘らず、可能な時間であれば入浴を楽しんでもらっている。	入浴時間は特に決めず、その日の入浴者の好みによる。入浴が自立の人には着替え等を見守っている。浴槽は個人毎に入浴する大きさで、浴室から湯加減調節ができる。入浴剤は使用していない入浴嫌いにはあれこれ誘導次第である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転には、ならないように配慮を行うと同時に日中居室で短時間休んでもらったりその方の体調気分に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日・毎食の服薬管理と記録を行っている。内服薬は、確実に服用しているか確認をしている。症状・状態に変化があれば看護師に相談し薬の変更や中止を医師と連携の下で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御入居者の残存能力を生かし、出来ることを見出して、活力ある生活が遅れる様支援している。縫物、家庭菜園など少しずつご入居者の楽しみを考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	4月には、コロナ禍の為、外出はできなかったがドライブを4~5名参加できた。また、毎月のおやつのお買い物では職員と一緒に出掛けた。	以前はよく、ドライブや買い物をしたり、自治会の祭・花火・公園等に出掛けていた。今はコロナのため周辺を散歩したり、法人内の隣接事業所と交流する程度になっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては、管理が困難な為家族了承の元施設にて管理している。預かっているお金から、本人が支払いをしている。また、家族様には半年ごとに金銭帳を提出している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の為、面会が出来なかった時入居者の日頃の顔写真を家族様に郵送した。また、テレビ電話で会話をしていた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳空間があり寛ぎの場となっている。車椅子で自走される御利用者も自由に移動ができる。季節感に関しては、工夫が必要と考える。また、併設されている保育園の様子が心を和ませている。	昼間は皆がロビーに出てきて、手芸したり歌ったり体操したり、あるいは各自が思い思いに過ごしている。以前はよく隣接保育所の園児が来たが、今はお互いが窓越しに見合っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席は入居者の関係や性格などで配慮を考えている。常に入居者どうしの関係に気を配り落ち着ける環境を提供している。居室内で過ごされている時も職員が訪室し、会話をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みのある家具や日用品などを持ってきて頂き、入居前の環境との違和感が無いよう工夫している。	ベッド・エアコン・クローゼットは事業所が設置しているが、他の調度品や趣味の品等は各自の好みで持ち込んでいる。夏・冬の衣類入れ替えは家族が管理している。部屋の掃除は職員がするが、以前は家族も来訪時に手伝っていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ・浴室など場所が分かりやすいよう、入居者の目線に合わせた位置に明記している。		